

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 17 日

評価対象事業		評価者	環境保全課長	牧野 直樹
環境-17	実施事業	鳥獣保護管理対策事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 環境保全課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	野生鳥獣等への対応

1 事業の目的

対象	市民等
意図	野生鳥獣の適正な保護及び管理のため。
効果	傷病野生鳥獣の治療のための捕獲を行うとともに、有害鳥獣による被害発生予防、被害原因除去と再発防止に努める。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 野生鳥獣の保護等に関する啓発を行うとともに、傷病等野生鳥獣の捕獲及び県指定収容施設への搬送を行った。 アライグマ、ハクビシン、タイワンリスなどいわゆる外来動物による生態系、生活環境等の被害の防止に係る説明・指導を行った。 外来動物に係る被害の実地調査、捕獲の許可を行った。また、捕獲個体の処分業務を委託した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	176,608人	83,058世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	10,153	8,843	当初予算(千円)	8,511		
	国県支出金	2,700	2,700	国県支出金	2,700		
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	7,453	6,143	一般財源	5,811		
	人員配置数	1.5	2.0	人員配置数	1.5		
事業経費運営	人件費(千円)	11,568	16,321	会計年度任用職員配置数	2.0		
	総事業費(千円)	21,721	25,164	総事業費(千円)	23,277		
	市民1人当りの経費(円)	123	143	市民1人当りの経費(円)	132		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有 効 性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入
		△-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協 働		△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	有害外来動物は生態系に深く浸透しているため、被害対策は今後も継続していく必要がある。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	有害外来動物による生活環境被害は市内全域で発生しており、住宅地等での生活環境被害を防除するため、被害の防止に係る説明・指導、捕獲駆除に必要な捕獲檻の調達・貸出・維持管理、捕獲個体の適正な処分等、有害外来動物の捕獲駆除に継続的に取り組んでいる。また、在来種の保護の一環として、市内において在来種の傷病野生鳥獣の救護に取り組んでいる。有害外来動物は、長い時間を掛けて生態系に深く浸透しており、生息数の把握が困難であることから、市内の生活環境及び生態系の保全のため、捕獲駆除等の取り組みを継続的に実施する必要がある。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和元年度(2019年度)事業実施にあつての課題(前年度未解決の事項を含む)	有害外来動物は、長い時間を掛けて生態系に浸透しているため、捕獲対象の有害外来動物の生息数の把握が困難なこともあり、根絶に向けてコントロール可能な個体数になるまで捕獲駆除事業を継続する必要がある。	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	有害外来動物の被害防止の取組として、鎌倉市のほか神奈川県及び三浦半島地域の3市1町が参加する横須賀三浦地域鳥獣対策協議会及び横須賀三浦地域鳥獣行政担当者打合せ会を通じて、有害外来動物の具体的な捕獲対策を検討・協議し、情報共有を図った。鎌倉市の取組として、捕獲檻を増設するほか捕獲檻の使用率を向上する等の捕獲圧力を高める取組を行った。また、有害外来動物の増殖防止策の一環として、野生動物への餌付け行為を抑制するため、公用車での車両アナウンス及びポスター掲示等により注意喚起を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	有害外来動物は、長い時間を掛けて生態系に浸透しているため、捕獲対象の有害外来動物の生息数の把握ができない。最終的な目標である有害外来動物の根絶は困難であるが、有害外来動物による生活環境被害は市内全域で発生しているため、捕獲駆除事業等を継続的に実施する必要がある。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	タイワリス捕獲数(令和元年度)							
団体名	鎌倉市	逗子市	葉山町	横須賀市	三浦市			
他市実績	955	330	426	3,004	70			

比較事項	アライグマ捕獲数(令和元年度)							
団体名	鎌倉市	逗子市	葉山町	横須賀市	三浦市			
他市実績	219	35	50	185	56			

比較事項	ハクビシン捕獲数(令和元年度)							
団体名	鎌倉市	逗子市	葉山町	横須賀市	三浦市			
他市実績	106	22	23	187	41			

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	タイワリス捕獲数	単位	頭	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	平成30年度は一過性の増加であるため令和元年度は目標値を据置
有害外来動物として具体的な把握が可能であるため	目標値	380	800	800	900	900	900	
	実績値	750	990	978	747	1,571	955	
	達成率	197.4%	123.8%	122.3%	83.0%	174.6%	106.1%	

指標の内容	アライグマ捕獲数	単位	頭	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
有害外来動物として具体的な把握が可能であるため	目標値	150	150	150	150	150	150
	実績値	135	131	203	125	212	219
	達成率	90.0%	87.3%	135.3%	83.3%	141.3%	146.0%

指標の内容	ハクビシン捕獲数	単位	頭	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
有害外来動物として具体的な把握が可能であるため	目標値	80	80	80	90	90	90
	実績値	105	90	97	91	98	106
	達成率	131.3%	112.5%	121.3%	101.1%	108.9%	117.8%

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	各年度の有害外来動物の捕獲個体数は、気候等の影響によりバラつきがあるが、引き続き個体数の減少に向けて捕獲圧力の継続と強化が必要である。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------